

# 土木学会四国支部「土木紀行」No.19(高知県)

## 「奈路の掘割」

四方を山々に囲まれた高知県南国市奈路は、南国市の北部に位置しており、藩政時代に建設された掘割が今もなお、地域の田畑を潤す水を運ぶ、農業用水路として使われている。

藩政時代、この地を領していた桐間氏が水利の便をはかるための掘割を計画したのである。その命を受けた川村泰四郎・代七父子（筆者は父子の末えい）が、土工頭しげじを中心に中谷川の水を掘割によって奈路に流す工事を行った。嘉永2年（1849）難工事は完成し、田野々（たのの）・新田（しんでん）・宮の谷・藤丘の各地区の水田四町歩を潤すことができるようになった。

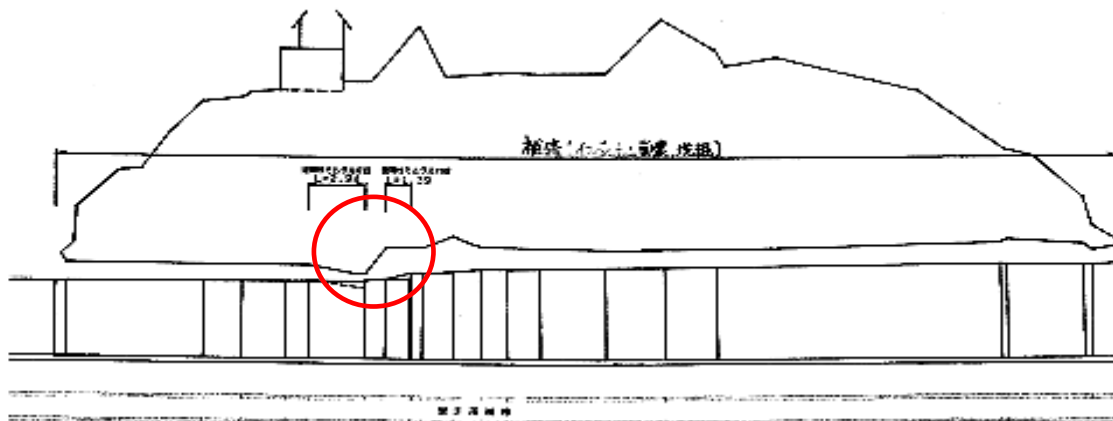
掘割水路延長は 55.82m であり、一部は現在の道路の真下を通過している。写真－1 は掘割の入口（中谷川側）、写真－2 は掘割の出口（奈路側）を示している。写真でも分かるように、それぞれの口の大きさは大人が膝をつかないと入れないものとなっている。そして、当時は人ひとりがやっと作業を行えるほどの空間であったため、苦勞していたことがうかがえる。



写真－1 掘割（中谷川側）



写真－2 掘割（奈路側）



図－1 堀割の縦断面図面

図－1は、平成15年度に堀割内部が一部崩落したため、補修作業が行われた際に測量された、堀割の縦断面図面である。堀割は2か所から堀進められており、赤い円で囲んでいる部分が合流地点となっており、上部の段差が生じているの分かる。その段差部分に勾配が見られるが、水の流れには問題はないようである。筆者は小学生の頃、社会科見学で堀割の中に入ったことがある。その段差部分は、うつ伏せになってようやく通過できるほどのものであった記憶がある。

写真－3は、昭和60年4月24日に南国市指定文化財に指定された際に設置された看板であり、これより20mほど坂を下ると堀割がある。

何年もの月日を越えて、人々の生活になくしてはならないものを造り上げた当時の土木職人のように、私も次の時代に残せる土木遺産を築き上げられる技術者になりたいと感じた。



写真－3 奈路の堀割看板（南国市奈路）

資料提供：南国市役所

(高知高専専攻科建設工学専攻1年 川村里沙)